

津久戸

平成30年2月1日

2月号 新宿区立津久戸小学校

「明治維新150年」～「志」をもつ

校長 八田 瑞穂

本年は明治維新150年。NHK大河ドラマ「西郷（せご）どん」が始まりました。維新3傑の一人に数えられる西郷隆盛は文政10年（1828年）に薩摩に生まれました。私の故郷、鹿児島にあっては大変人気のある偉人です。生誕の地、鹿児島市下加治屋町からは西郷、大久保利通を筆頭に多くの人材が輩出しています。薩摩藩は人材を多く生み出しました。その秘密の一端は教育にあります。武士の子どもたちに郷中（ごじゅう）教育という独特の教育が行われ6歳から15歳の少年が集まりました。その中で特に大事にされたのが「詮議（せんぎ）」という方法です。本校で研究してきた対話型の学習です。武士は戦の成功・失敗事例を文字でなく耳で学び、みんなで議論しました。

私が小学生の時まさに鹿児島は明治維新100年で、学校をあげて維新の偉人を称揚していました。また「日新公（じっしんこう：島津の殿様）いろは歌」を唱えました。

「いにしへの道を聞いても唱えてもわが行いにせざばかいなし」（どんな昔の教えを聞いても自分で実践しなければなんの意味もない）の歌は折に触れ口をついて出ます。

また郷中教育の名残もあり、年長のお兄さんを14頭（じゅうしがしら：14歳のリーダー）と呼び、集落ごとに行われる十五夜相撲の土俵づくりから縄ねり、そして綱引き大会の運営や準備（各戸に回り寄付を集めた）をしました。異年齢の少年の集団だけで地域の催しをやっていたのです。敬老の日に、小学生が集まり敬老会の集まりのお手伝いなどもしました。西郷隆盛は激動の時代を生き、評価するのが難しい人物ともいわれますが私利私欲を排し「公（おおやけ）」への奉仕の精神で、人のために頑張った姿勢は誰しも尊敬するところです。

小学生には難しい面もあると思いますがその高い「志」を学んでほしいと思います。

クラブ活動

クラブ活動は、異年齢の児童による、自発的、自治的な活動を通して、共通の興味・関心を追及する活動です。津久戸小学校には、「科学」「創作」「スポーツ」「家庭科」「パソコン」「ダンス」「日本文化」の7つのクラブがあり、年間13回、1回60分間として、4年生から6年生までの児童が活動を楽しんでいます。2月は、来年度からクラブに参加する3年生が「クラブ見学」を行います。そして、3年生、4年生、5年生の3学年でアンケートをとり、来年度のクラブを決めていきます。さらに、意欲的に楽しめる活動にしていきたいと思います。

図工室より

一年間の図工の取り組みを振り返ってみました。

1年生は直接指導していませんが、教室の前を通ると笑顔を感じさせる作品が展示されていて和みます。

2年生の「夢を売るお店」では体験をもとにお店をきめて表し方や発想を広げていきます。考えたこと思いついたことを紙や粘土を使って次々に形に表しました。

3年生の「秋を感じて」では校庭の花壇や木から秋らしさを感じて表現しました。今年はいいざりに赤い房状の実がなりました。それを目ざとく見つけて表現に取り組みました。同じ木を描いても一人一人の個性が表れていました。

4年生の木版画では学級全体が緊張して彫刻刀を安全に正しく使って活動しました。刷り上がった版画を互いに見せあい、発想の楽しさや刷り上がりの美しさに歓声が上がっていました。

5年生の「ゴムダッシュ」は、ゴムの力を使って走る仕組みを理解して車をつくります。そして残った材料を工夫して感性に適した車をデザインしていきます。今年は16m49cmという最高記録が出ました。またダイオウグソクムシをイメージしたデザインは迫力がありました。

6年生は校内の写生に想像や思い出を加えて構成した「校内が変わった」に取り組みました。1年生の時の思い出をまとめた構図、好きな動物やスポーツと合わせた構図など卒業、進学が徐々に近づいてくる気持ちを感じさせる作品が多くみられました。



音楽室より

音楽の授業を通して、一人一人ができることを増やしてほしいと思います。

歌唱を例にとると、高い声が得意な児童もいれば低い声が得意な児童もいます。一人一人が両親から受け継いだ自分だけの大切な声を持っています。一人一人の児童の声を尊重しながら、それを磨くのが音楽の授業のねらいだと考えています。中学校へ進学して合唱が楽しめるように、小学校では、「合わせる」感覚を身に付けながら、自分の声をしっかりと出せる人になってほしいと思っています。

合奏では、一人一人の児童が、自分のめあてをもって、いろいろな楽器に挑戦してほしいと思います。楽器のバランスのとれた演奏も時には必要ですが、普段の授業では、できるだけ児童の希望を優先して、「やってみたい」と思うことに挑戦してほしいと思っています。例えば大太鼓を10人の児童がやりたいなら、皆にやってもらいます。何事も経験しなければ、どのようなものなのか本質が分からないと思うからです。いろいろな楽器にふれながら、音楽の楽しさを感じてもらえたらいいなと思います。

また、歌唱、楽器演奏などの表現活動だけでなく、音楽を聴くことから音楽が好きになる児童もいます。様々な児童の気持ちを考えて、授業づくりに私自身が挑戦していきたいと思っています。まだまだ至らないことも多いですが、これからもどうぞよろしく願いいたします。